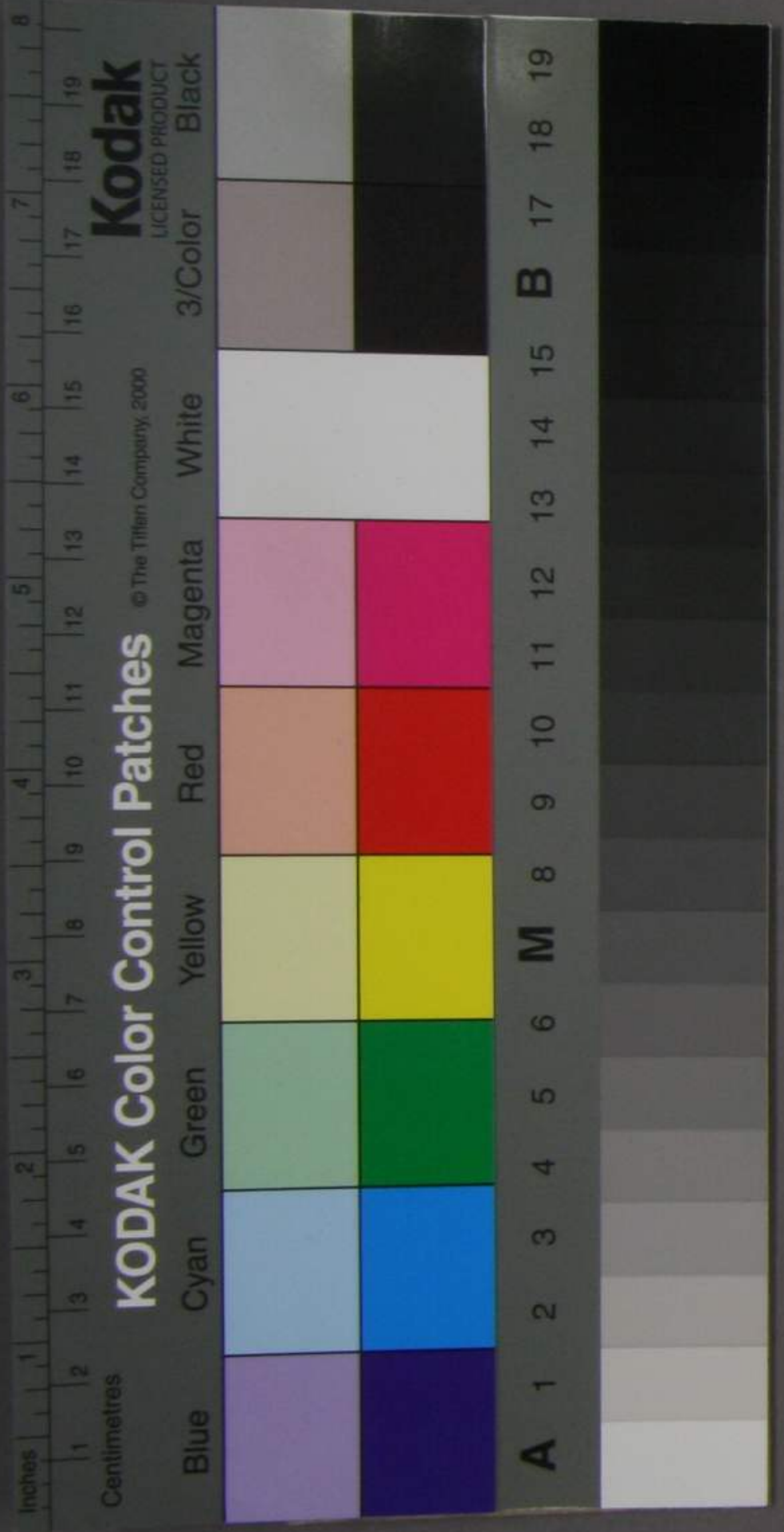


114
A1905



大正十一年四月
大隈侯爵贈

本邦古來地租概子實米ヲ以テ之ヲ納ム是ヲ以テ其收
獲ノ時ニ際シ一時之ヲ徵收スト雖モ農民ニ於テ固ヨ
リ納メ易ク之ヲ收了スルモ亦更ニ金錢ノ通融ヲ障礙
スル一無シ嚮キニ石代納ノ自由ヲ許セシヨリ農民多
ク其便ニ趨ル然レ氏納期三四箇月間ニ限り一時競テ
米ヲ散鬻スルヲ以テ價格低下シ損欠尠カラス終ニ復
タ米納ヲ思願スルニ至ル全國收稅ノ内地租獨リ十ノ
九ニ居ル去ル七年中ノ現收額ヲ合計スルニ金六千七
百九拾餘萬圓トス試ミニ之ヲ各府縣ニ平分スルニ一
府縣金百零九萬餘圓トス其地租ノミニ於ケル亦夥多
ナラスヤ
從前封建ノ制ノ如キ大小藩邑海内ニ碁布シ該地ノ稅



歛ハ該地ニ於テ鬻賣シ價金亦隨テ該地ニ散布シ他ニ
移轉スルト少キヲ以テ固ヨリ金融ノ梗塞ヲ見サルナ
リ今ヤ然ラス一府縣内ノ收納百有餘萬圓ノ巨額該地
運用貨幣ノ内ヨリ拾收シ僅カニ三四箇月ノ間ニ於テ
之ヲ官庫ニ聚メ而テ之ヲ散布スルヤ漸ク以テシ且首
トシテ東京ニ於テスレハ其各府縣ニ廻復スル日月ヲ
期シテ埃ツ可カラス舊納ノ貨幣未タ廻復セス而テ新
納ノ期限已ニ至ル歳コトニ此ノ如シ通融ノ益々壅塞
スル知ル可キナリ

地租改正行ク將サニ竣功ニ至ラントス其悉皆金納ト
ナルモ米穀收穫ノ際一時徵收ス可キニ似タリ然レモ
爾後米穀究竟貢納ノ具ニ非ス全ク他物産ト一般ナレ
ハ固ヨリ時價ヲ按察シ舒ニ之ヲ鬻賣セシメ漸次徵收

スルノ便ナルニ若カス因テ惟フ宜シク地租一時徵收
ノ制ヲ廢シ該地方納額ヲ以テ其便宜ニ隨ヒ六分或ヒ
八十二分トナシ一歲中間月若シクハ連月ニ於テ追次
徵收ノ制ヲ定ムヘシ果シテ然ラハ以テ前項掲クルト
コロノ弊害ヲ極ヒ貨幣稍々全國ニ流通ス可ク且從前
地租時月ヲ期シ之ヲ收納スルヲ以テ其已ニ納了スル
ニ至ルヤ恰モ負擔ヲ釋クカ如ク自ラ其勉勵心ヲ放却
シ以テ姑息ニ安ンスルニ至ル今其習慣ヲ變易シ得テ
人各々自ラ顧慮シ常ニ意ヲ斯コニ留ムルニ至テハ則
チ以テ其節儉ノ性ヲ養成シ殖産ノ業ヲ勸奨スルニ至
ラン是ニ於テカ庶幾ハクハ以テ戸コトニ瞻リ人コト
ニ給シ以テ全國富強ノ域ニ馴致ス可ク是レ余カ切ニ
斯コニ注望スル所以ナリ

然ルニ右方法ヲ施設スル人或ヒハ謂ハシ民事緩ク
ス可カラズ痴頑ノ小民ニ至テハ收穫ノ際一時之ヲ納
入セス苟クモ自家贏餘有レキハ朝夕夕ベヲ慮ルヲ
知ラス動モスレハ臨時猥リニ消耗スルノ憂ヒ有ラン
ト凡ノ事其餘波末路ニ至テハ亦流弊有ルヲ免レスト
雖モ彼此ノ間其利害得失ヲ計較スレハ將サニ復タ止
ム可カラサルモノ有ラントス若シ夫レ舊來ノ慣行一
時變革シ難キ所有ラハ右一歲中分割收納ヲ以テ本則
ト爲シ就中事實已ムヲ得サルモノニ至テハ亦其情由ヲ
照料シ較ク以テ適宜處分ノ方法ヲ加フ可キナリ
右ハ舊來ノ方規ヲ變革スル固ヨリ容易ナラスト雖モ
卑見ノ及フトコロ謹テ其概略ヲ開申ス冀ハクハ豫メ
高裁有ラントヲ尚其施設節目ノ如キハ別ニ之ヲ具陳

セン幸ヒニ諒察セラレヨ

明治九年二月

租稅權頭吉原重俊

大藏卿大隈重信殿

